

平成30年度 第3回  
ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

平成31年3月  
岩手県保健福祉部地域福祉課

# ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

## I アンケートの趣旨

平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、これまで誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

## II 調査実施期間

平成30年11月28日（水）～ 平成30年12月11日（火）

## III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

## IV 調査対象

平成30年度希望郷いわてモニター262名

## V 回答者数

221名

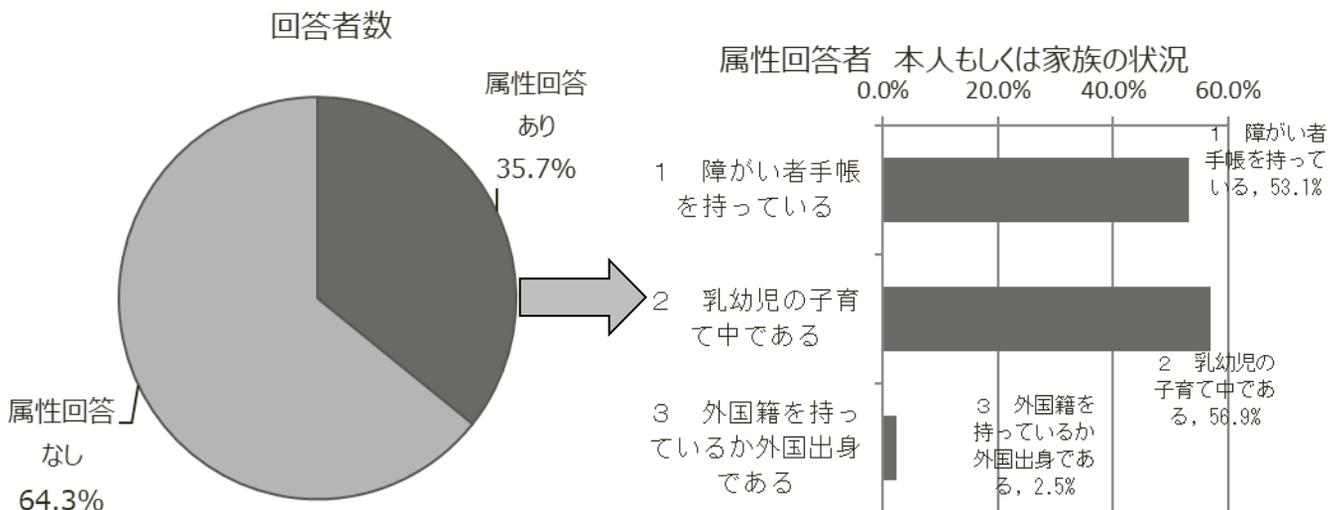
## VI 回答率 84.4%

## 回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	79	35.7%
属性回答なし	142	64.3%
合計	221	100.0%

### <属性の内訳> (重複あり)

	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	11	13.9%	31	39.2%	42	53.1%
2 乳幼児の子育て中である	25	31.6%	20	25.3%	45	56.9%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	2	2.5%	2	2.5%
合計	36	45.5%	53	67.0%	—	—



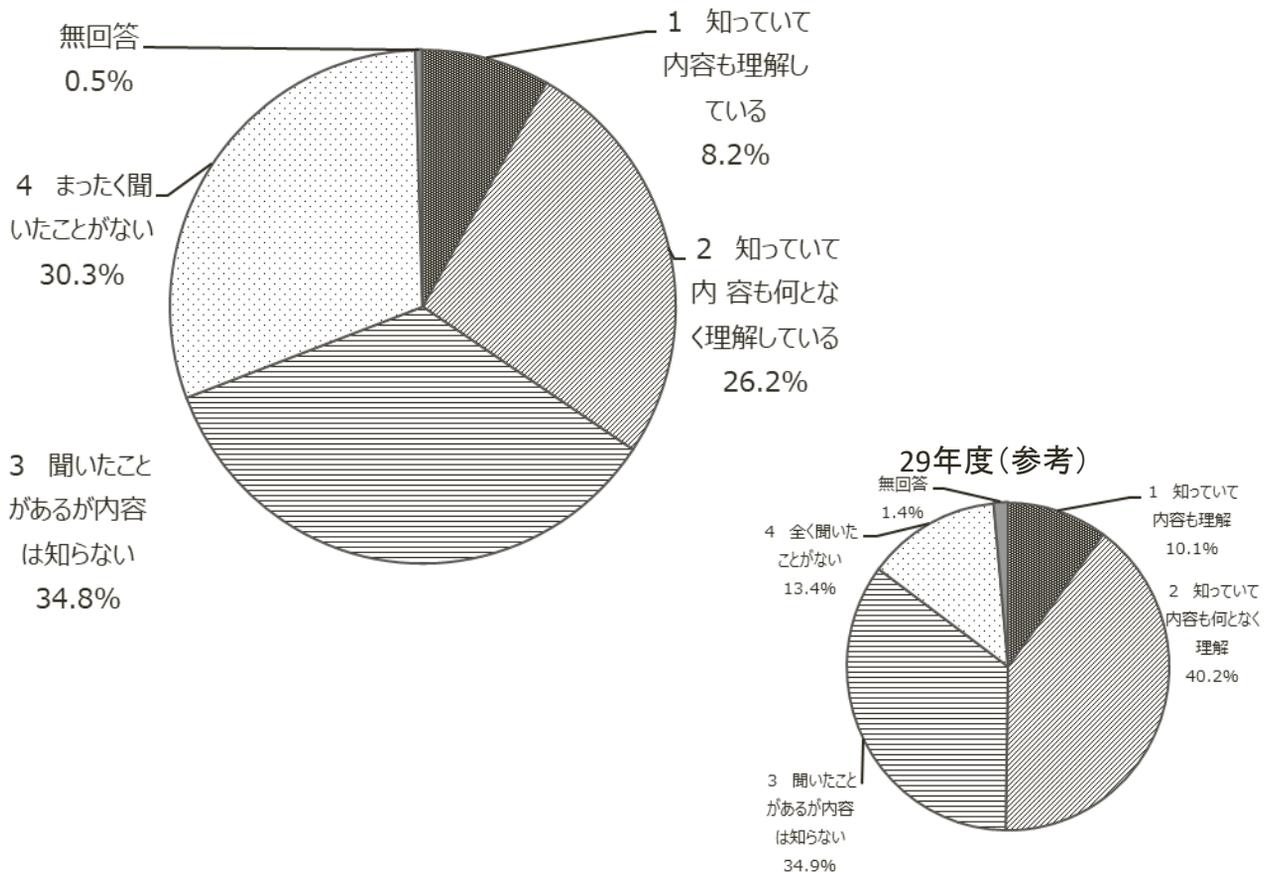
### 【調査結果】

属性の回答があった方のうち、本人か家族が障がい者手帳を持っている又は乳幼児を子育て中である方が、5割を超えている。

## 問 1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	18	8.2%	21	10.1%
2 知っていて内容も何となく理解している	58	26.2%	84	40.2%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	77	34.8%	73	34.9%
4 全く聞いたことがない	67	30.3%	28	13.4%
無回答	1	0.5%	3	1.4%
合計	221	100.0%	209	100.0%



### 【結果概要】

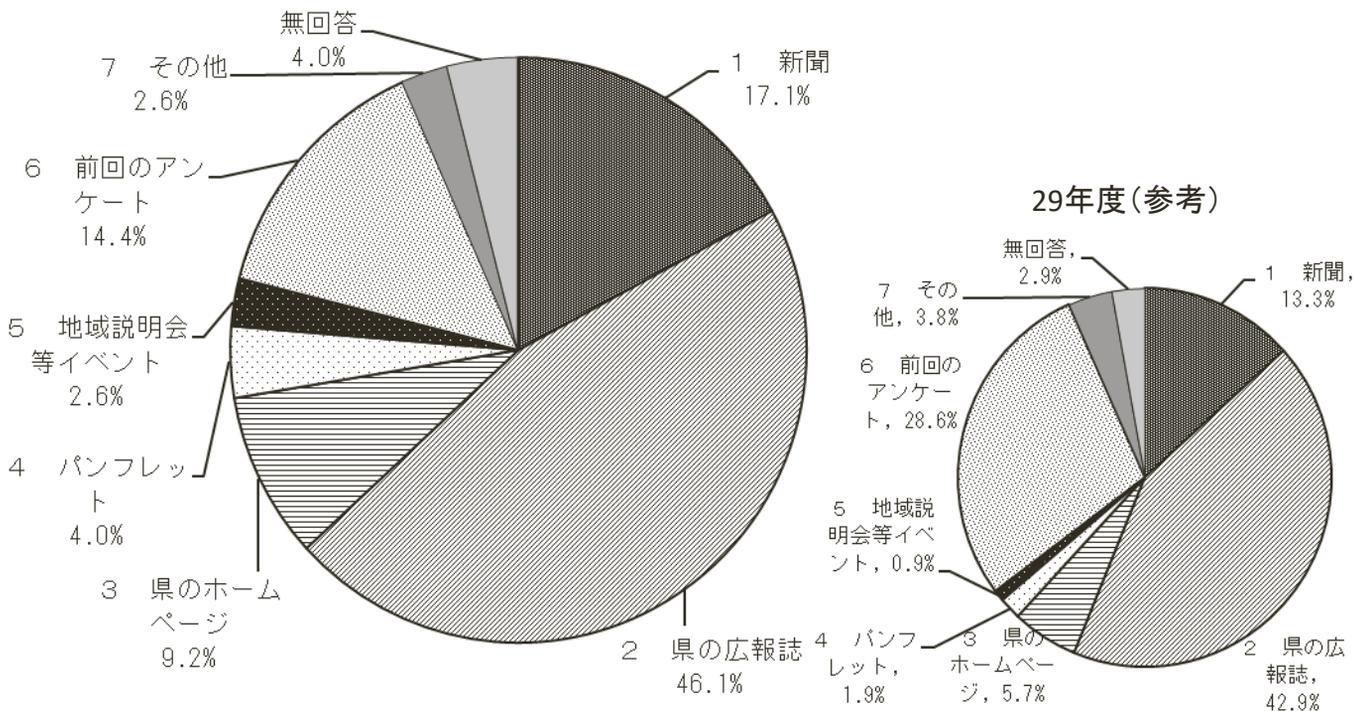
ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している（「何となく理解」も含む。）方は4割を下回り、平成29年度と比較し、15.9ポイント下がっている。

## 問 2

問 1 で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	13	17.1%	14	13.3%
2 県の広報誌	35	46.1%	45	42.9%
3 県のホームページ	7	9.2%	6	5.7%
4 パンフレット	3	4.0%	2	1.9%
5 地域説明会等イベント	2	2.6%	1	0.9%
6 前回のアンケート	11	14.4%	30	28.6%
7 その他	2	2.6%	4	3.8%
無回答	3	4.0%	3	2.9%
合計	76	100.0%	105	100.0%

< 7 その他の主な内容 >  
仕事等で関わっている



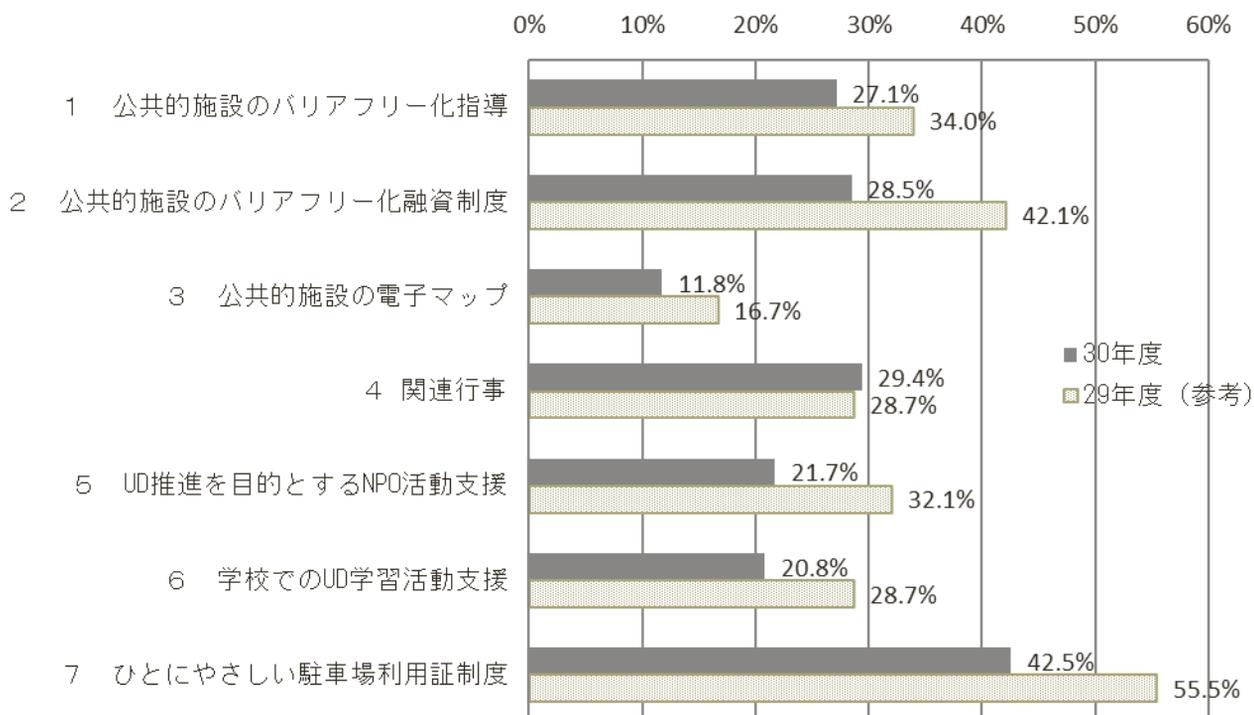
### 【結果概要】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、広報誌を挙げるケースが多く、今後も啓発を継続する必要がある。

### 問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	60	27.1%	71	34.0%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	63	28.5%	88	42.1%
3 公共的施設の電子マップ	26	11.8%	35	16.7%
4 関連行事	65	29.4%	60	28.7%
5 UD推進を目的とするNPO活動支援	48	21.7%	67	32.1%
6 学校でのUD学習活動支援	46	20.8%	60	28.7%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	94	42.5%	116	55.5%
(回答者実数計)	221	—	209	—



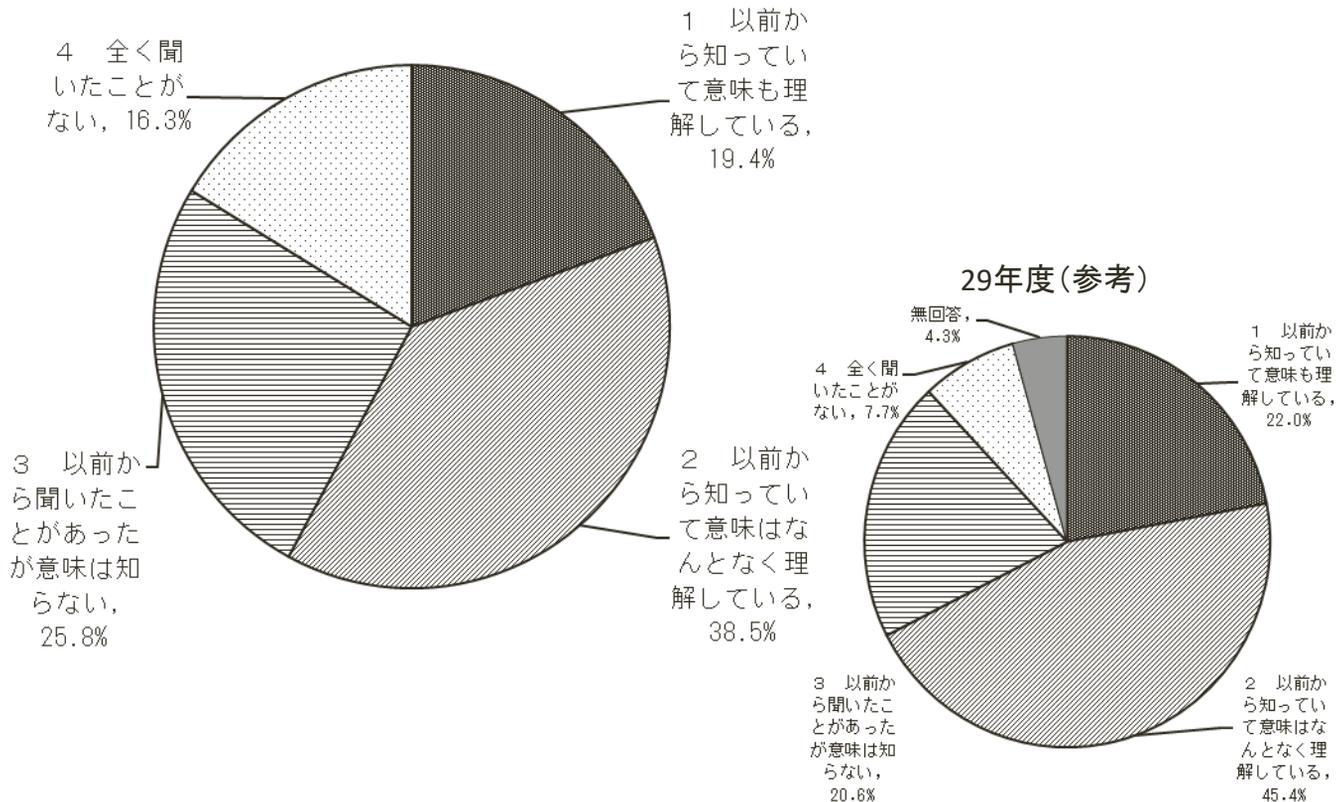
#### 【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が最も高くなっている。

## 問 4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解している	43	19.4%	46	22.0%
2 以前から知っていて意味はなんとなく理解している	85	38.5%	95	45.4%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らない	57	25.8%	43	20.6%
4 全く聞いたことがない	36	16.3%	16	7.7%
無回答	0	0.0%	9	4.3%
	221	100.0%	209	100.0%



### 【調査結果】

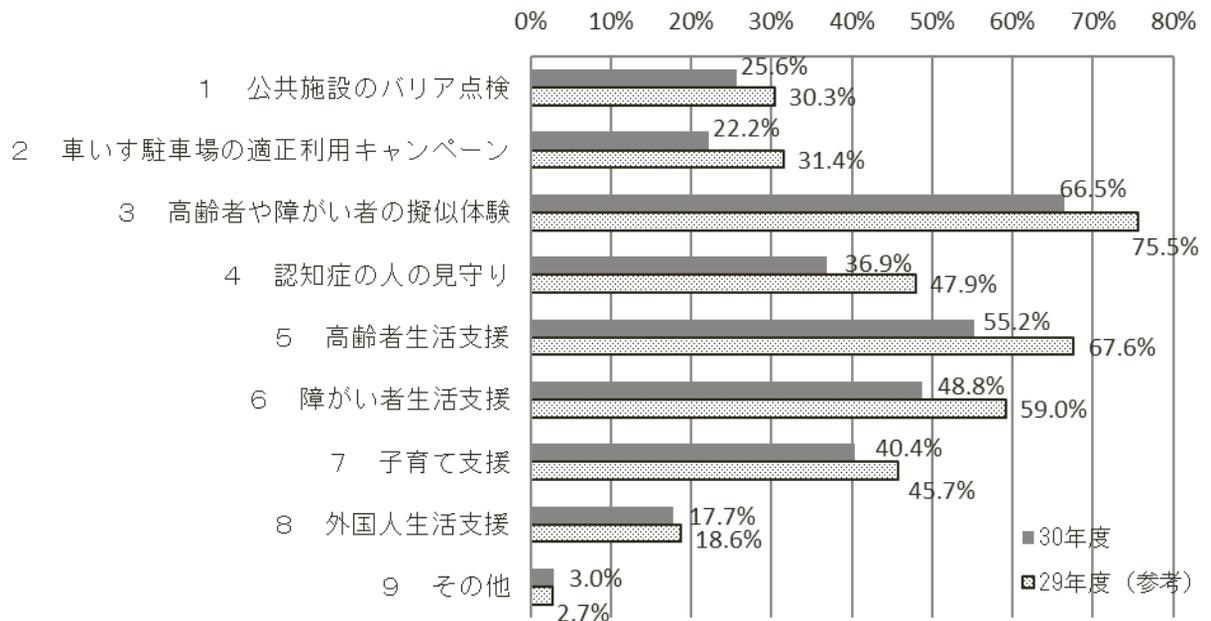
平成29年度と比較し、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがあり、意味を理解（「なんとなく理解」も含む。）している方の割合は6割程度となり、10ポイント近く減少した。

## 問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	52	25.6%	57	30.3%
2 車いす駐車場の適正利用キャンペーン	45	22.2%	59	31.4%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	135	66.5%	142	75.5%
4 認知症の人の見守り	75	36.9%	90	47.9%
5 高齢者生活支援	112	55.2%	127	67.6%
6 障がい者生活支援	99	48.8%	111	59.0%
7 子育て支援	82	40.4%	86	45.7%
8 外国人生活支援	36	17.7%	35	18.6%
9 その他	6	3.0%	5	2.7%
(回答者実数計)	203	—	188	—

- ＜9 その他の内容＞  
 ●自身が障がい者。  
 ●ボランティア活動。



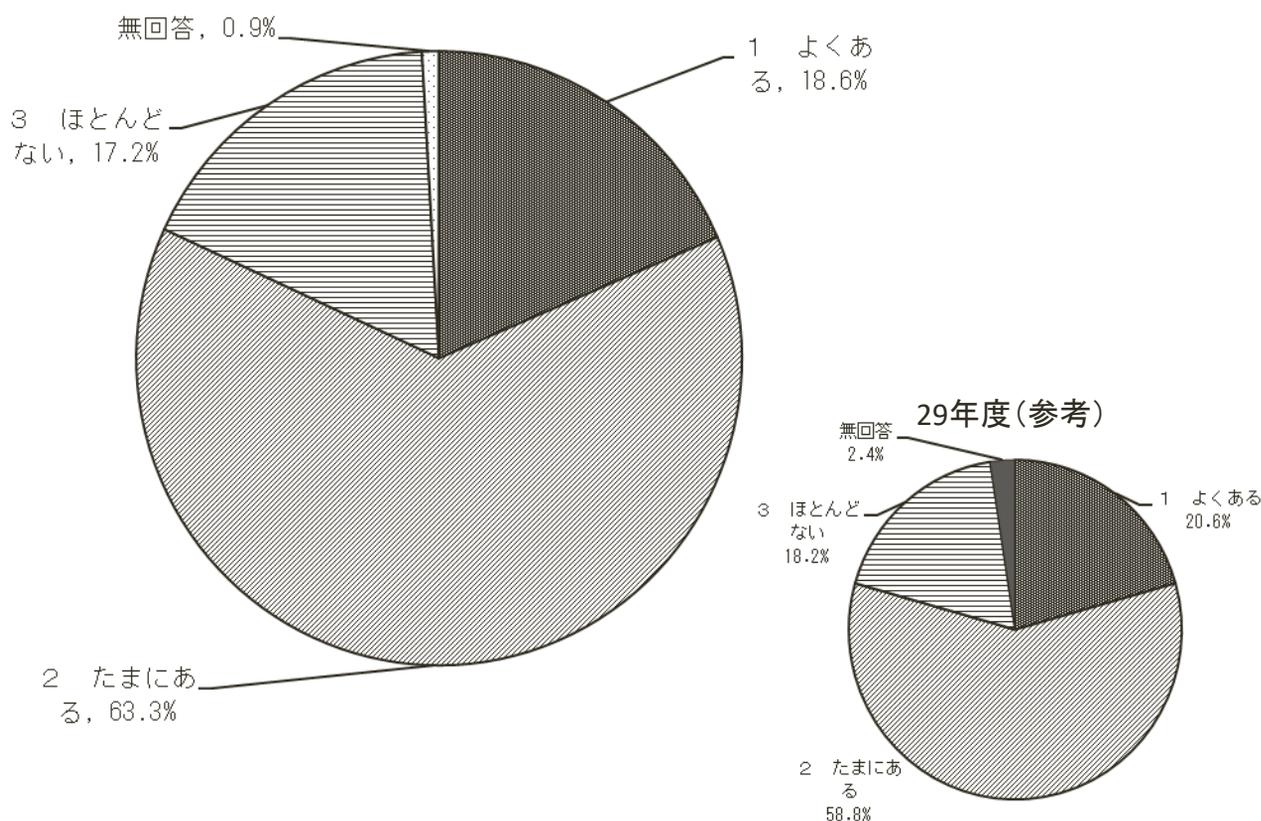
### 【調査結果】

全体的に減少したが、「高齢者や障がい者の疑似体験」と「高齢者・障がい者の生活支援」と答えた方が多い。

## 問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よくある	41	18.6%	43	20.6%
2 たまにある	140	63.3%	123	58.8%
3 ほとんどない	38	17.2%	38	18.2%
無回答	2	0.9%	5	2.4%
計	221	100.0%	209	100.0%



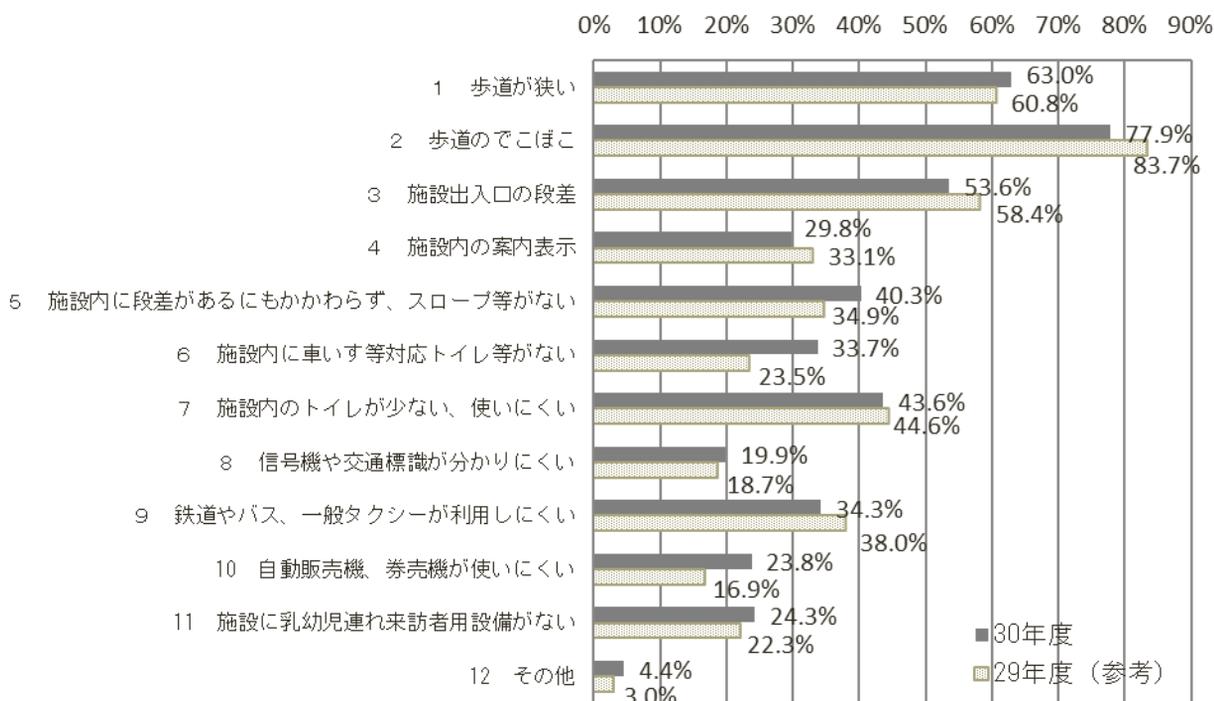
### 【調査結果】

「よくある」又は「たまにある」と回答した方の割合は、8割程度あり、まちの中にまだたくさんのハード面のバリアが存在し、多くの方が不便を感じていることが伺える。

## 問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	114	63.0%	101	60.8%
2 歩道のでこぼこ	141	77.9%	139	83.7%
3 施設出入口の段差	97	53.6%	97	58.4%
4 施設内の案内表示	54	29.8%	55	33.1%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	73	40.3%	58	34.9%
6 施設内に車いす等対応トイレ等がない	61	33.7%	39	23.5%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	79	43.6%	74	44.6%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	36	19.9%	31	18.7%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	62	34.3%	63	38.0%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	43	23.8%	28	16.9%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	44	24.3%	37	22.3%
12 その他	8	4.4%	5	3.0%
(回答者実数計)	181	—	166	—



### 【調査結果】

歩道、施設の出入口の段差、トイレの数や案内表示、公共交通機関への不満が多く、全体的な傾向は変化していない。

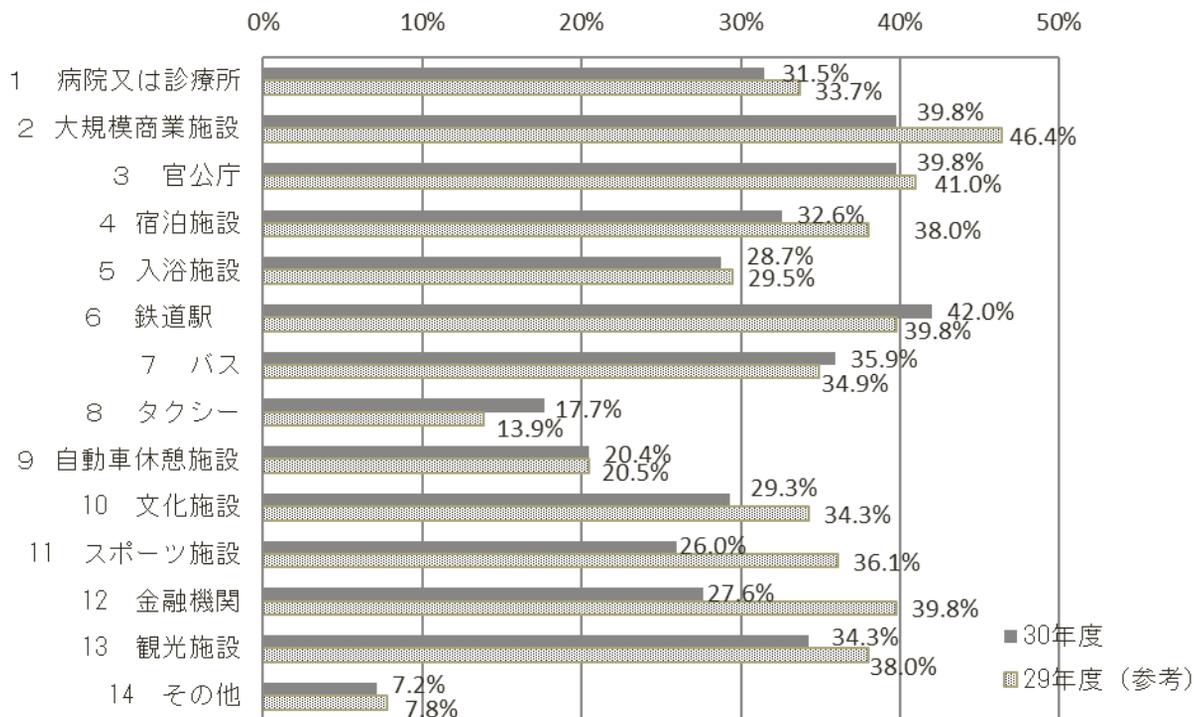
<12その他の内容>

- 授乳などのスペースは見られるが、大人用のオムツ交換などのスペースが見られない。
- 建設・建築されてから、年数経過している建物にバリアが散見される。
- 高齢者や身体に痛みを持っている者にとっては、駅の階段での移動は困難である。
- 交差点で音の出る信号機が少なく、歩道の点字ブロックも壊れて機能していない。
- 障がい者といえども、いつも同伴してくれる人がいるわけではない。
- オムツ交換の場所がロビーの隅だった。せめて個室にしてほしい。
- 椅子やテーブルなど、少し休めるスペースが少ない施設がある。
- 公共的施設で敷地が限られて改修、増築は大変難しいと思われるが、トイレが共有だと使用しにくいときがある。
- 行政当局へ改善要望しているが、対応してくれない。
- 車いす用の駐車場に平気で健常者が車を駐車している。
- 玄関に雨よけがない場所は、タクシー乗降の際に困る。
- 車いすや高齢者用の駐車場なのに、予約しないと使えない施設や、健常者優先で、障がい者が逆に警備員に追い返される場所もあった。

## 問 8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	57	31.5%	56	33.7%
2 大規模商業施設	72	39.8%	77	46.4%
3 官公庁	72	39.8%	68	41.0%
4 宿泊施設	59	32.6%	63	38.0%
5 入浴施設	52	28.7%	49	29.5%
6 鉄道駅	76	42.0%	66	39.8%
7 バス	65	35.9%	58	34.9%
8 タクシー	32	17.7%	23	13.9%
9 自動車休憩施設	37	20.4%	34	20.5%
10 文化施設	53	29.3%	57	34.3%
11 スポーツ施設	47	26.0%	60	36.1%
12 金融機関	50	27.6%	66	39.8%
13 観光施設	62	34.3%	63	38.0%
14 その他	13	7.2%	13	7.8%
（回答者実数計）	181	—	166	—



### 【調査結果】

平成29年度と比較し、全体的に減少傾向にあるが、「鉄道駅」、「バス」、「タクシー」の公共交通機関にバリアを感じている方が若干増えている。

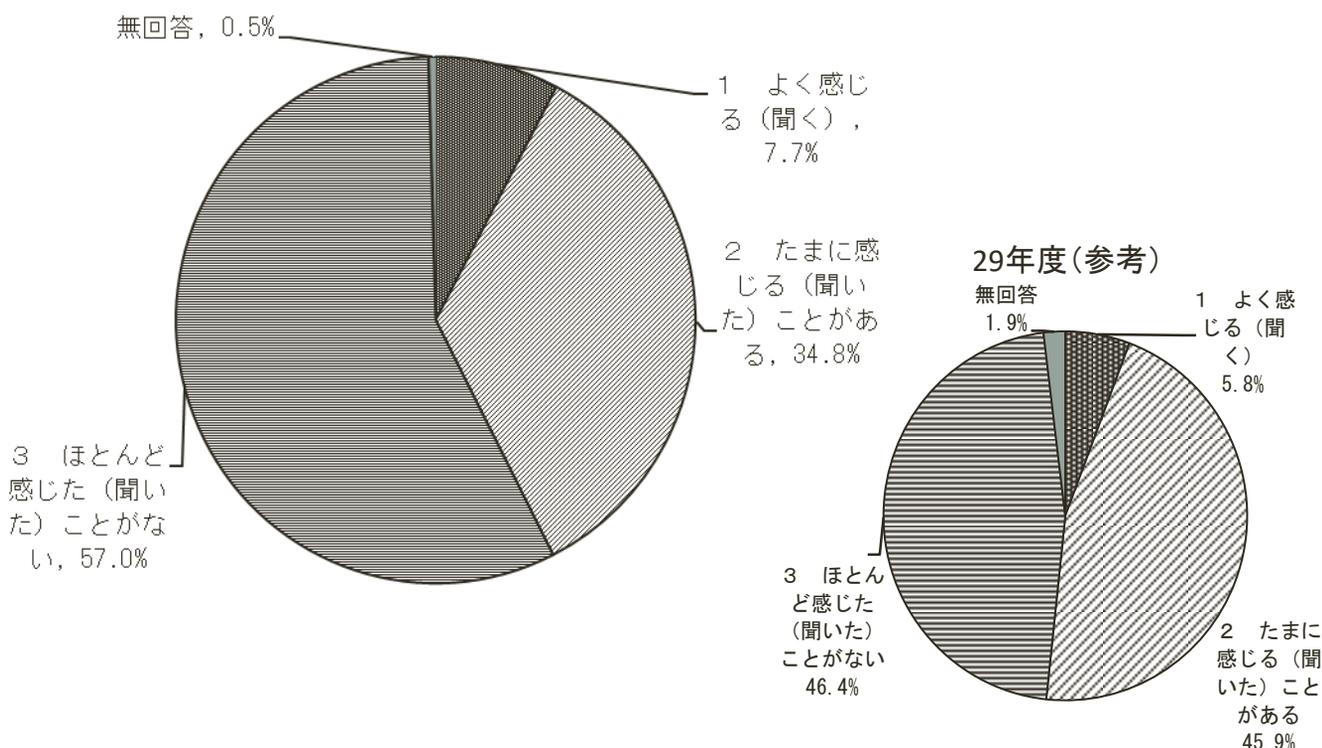
<14その他の内容>

- 施設ではなく歩道が斜めになっている。
- 街中の道路。
- 歩道のでこぼこ。
- 古い施設に、スロープやエレベーター、階段の昇降機がない場所が多い。
- 利用客が多い割に駐車スペースが少ない。バス停の近くだと利用しづらい。
- 盛岡市材木町。
- 県の教育センター。
- 横断歩道周辺に段差があり、ベビーカーでスムーズに進めないことが多い。
- 県民会館の車いす席が一番奥にあり、適切ではない。各地域にある公民館はどこもスロープがない。
- 公園。
- イベントで盛岡のホールに介助者同行で行ったが、ドアが重厚で、開閉が困難な場所がある。県外からの観光客、高齢者などの安全を考えるならば、スタッフ配置が必要だと感じた。
- 一部のコンビニで建物の周辺がでこぼこしていたり、階段や段差があっても手すりがない店があり、何度か転んだり、足を痛めたことがある。

## 問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車いす用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車いすの適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる（聞く）	17	7.7%	12	5.8%
2 たまに感じる（聞いた）ことがある	77	34.8%	96	45.9%
3 ほとんど感じた（聞いた）ことがない	126	57.0%	97	46.4%
無回答	1	0.5%	4	1.9%
計	221	100.0%	209	100.0%



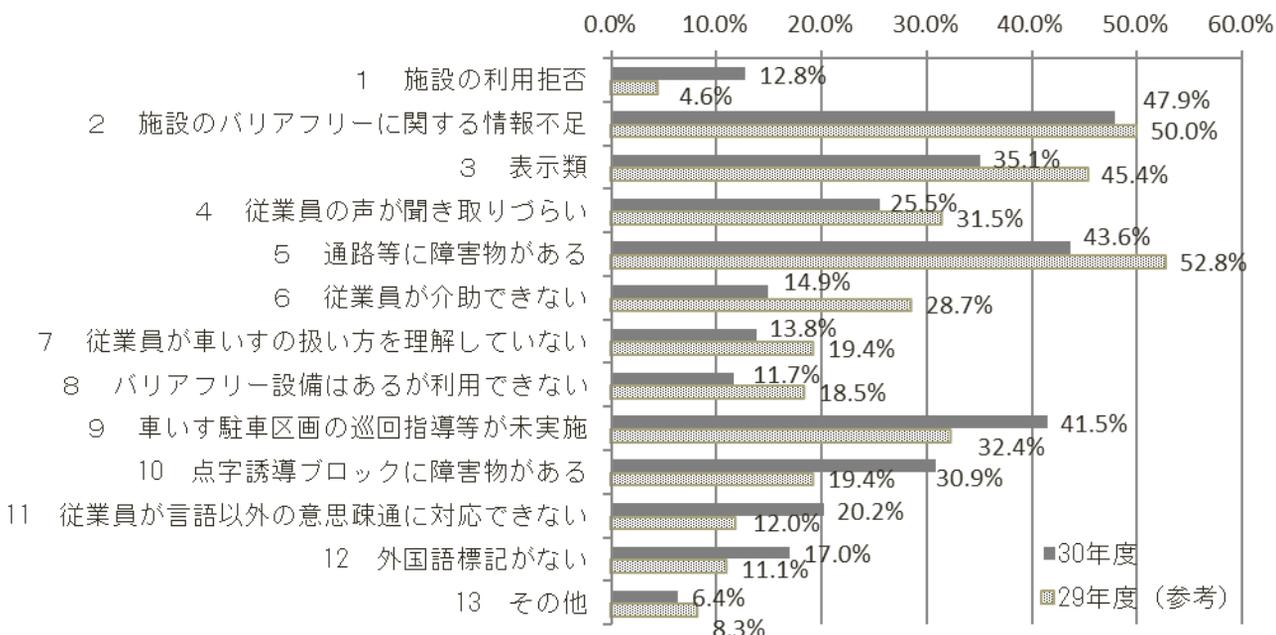
### 【調査結果】

「よく感じる」又は「たまに感じる」と回答した方の割合が半数を下回り、平成29年度と比較し、9.2ポイント下がっている。

## 問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	12	12.8%	5	4.6%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	45	47.9%	54	50.0%
3 表示類	33	35.1%	49	45.4%
4 従業員の声が聞き取りづらい	24	25.5%	34	31.5%
5 通路等に障害物がある	41	43.6%	57	52.8%
6 従業員が介助できない	14	14.9%	31	28.7%
7 従業員が車いすの扱い方を理解していない	13	13.8%	21	19.4%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	11	11.7%	20	18.5%
9 車いす駐車区画の巡回指導等が未実施	39	41.5%	35	32.4%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	29	30.9%	21	19.4%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	19	20.2%	13	12.0%
12 外国語標記がない	16	17.0%	12	11.1%
13 その他	6	6.4%	9	8.3%
(回答者実数計)	94	—	108	—



### 【調査結果】

平成29年度と比較し、減少している項目が多いが、「施設の利用拒否」、「車いす駐車区画の巡回指導」、「点字ブロック」、「言語以外の意思疎通」、「外国語標記」に不便を感じた方が増加している。

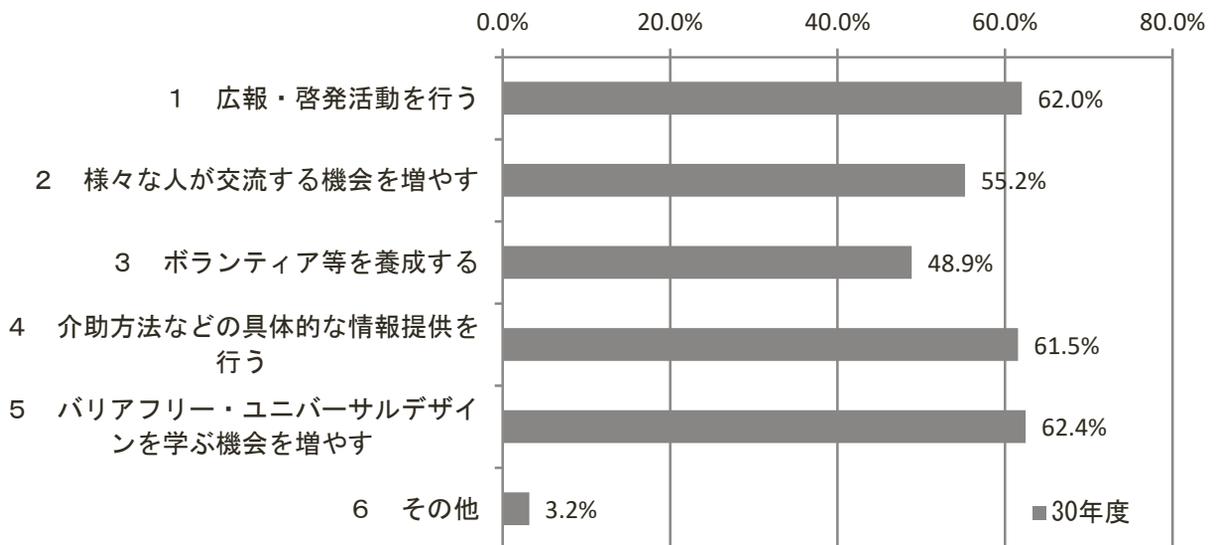
<13その他の内容>

- 事務員等以外の方の「ソフト」面に対する意識が低すぎる。積極性が必要。
- 施設で働く人のおもてなし、思いやりの心が足りないと思う。
- 市民センター等、公共施設に車椅子が設置されていない。
- 車いす駐車区画では、マークを付けていれば使っても良いと思っている人が多い。本当に使いたい人が使えていないと感じる。従業員に問い合わせても、不機嫌そうな顔で対応された。
- 鉄道に乗っていて、場内アナウンスが乗客の声で聞こえにくいことがある。乗客のモラルの関係もあると思うが、行き先ははっきりと2回発音してもらいたいと思う。
- 公共施設等の管理者への障がい者対応教育（研修）を希望する。
- イベントで一般の人と差をつけることはない。「心配なら来場するな」と開催担当者に言われた。それから岩手県の閉鎖性を考えるようになった。
- よく見えないから質問しているのに怒られたり、なぜか笑われてしまうときがある。
- ベビーベッドなどが少ない。

## 問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度	
	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	137	62.0%
2 様々な人が交流する機会を増やす	122	55.2%
3 手助けするボランティア等を養成する	108	48.9%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	136	61.5%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	138	62.4%
6 その他	7	3.2%
回答者実数計	221	—



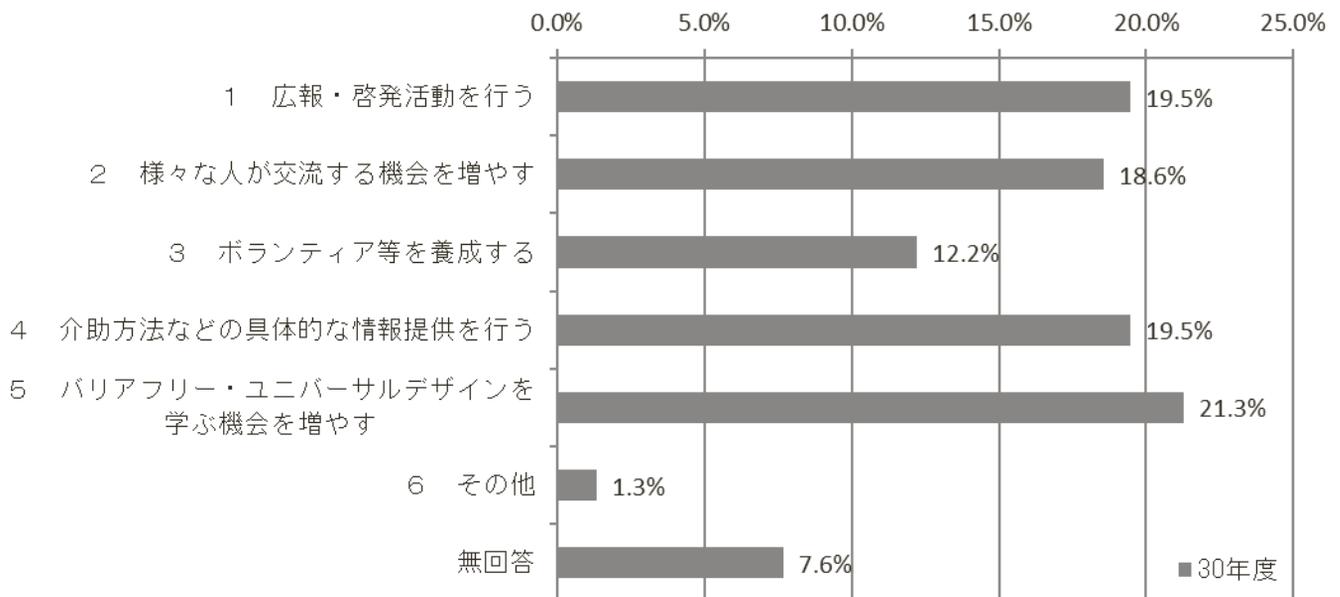
### 【調査結果】

今年度からの質問項目である。「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「広報・啓発活動」、「介助方法などの具体的な情報提供」の項目については、6割以上の方が必要と感じている。

## 問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	30年度	
	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	43	19.5%
2 様々な人が交流する機会を増やす	41	18.6%
3 手助けするボランティア等を養成する	27	12.2%
4 サポートするための介助方法など、具体的な情報提供を行う	43	19.5%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	47	21.3%
6 その他	3	1.3%
無回答	17	7.6%
計	221	100.0%



### 【調査結果】

今年度からの質問項目。「学ぶ機会を増やす」ことが必要だと感じている方が、20ポイントを超えている。他の項目の割合に大きな差はない。

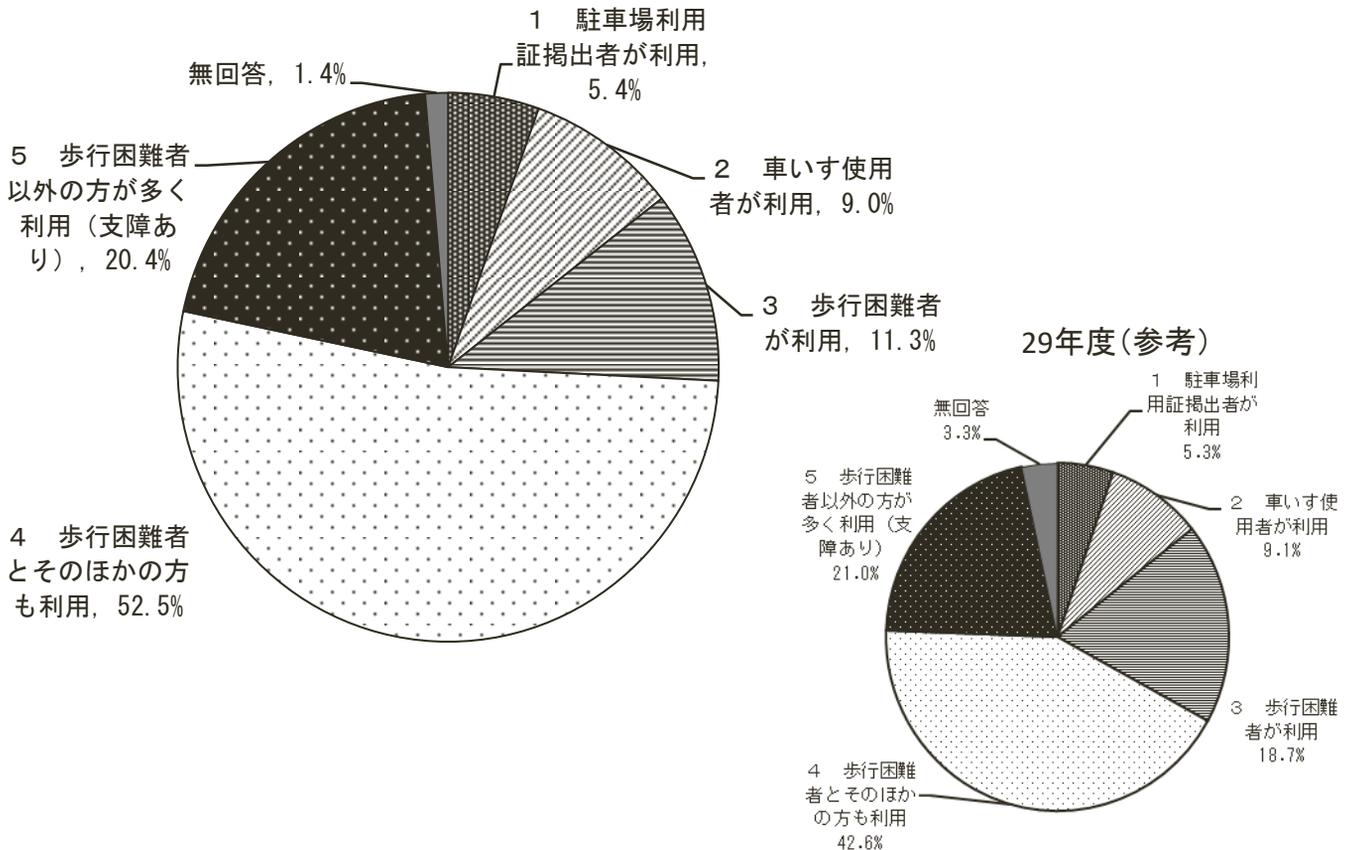
<6 その他の主な内容>

- 自治会（町内会）単位でのきめ細かな対応、指導により徹底させる。
- 障がい者、高齢者等の作品を常時販売できる機会をつくる。雇用や自立、生きがい、経済状態が良くなることが見込める。
- 企業でも介助方法を学ぶ機会をつくるよう働きかけてはどうか。
- 学校教育に保護者も参加できるような内容が必要。一人ひとりが思いやりを持つことが大切。
- 教育も幼稚園、保育所から障がいを持っている人と接し学び、また、気付く力を養っていくことに力を入れる。
- 受け手である障がい者や高齢者等にも心の醸成が大切だと思う。
- ボランティアばかりに頼らず、専門の職業の方の取組も必要。
- 県職員、学校関係者の「教育、研修」と実践（ボランティア）が必要。
- 社会の基礎となる家庭の中で、大人が高齢者、障がい者を思いやる姿を見せていくことが子どもの心の成長となり、社会に出てからの醸成につながっていくのではと思う。

## 問12

公共的施設には、車いすを使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車いす駐車区画」が設けられています。最近の車いす駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	12	5.4%	11	5.3%
2 車いす使用者が利用	20	9.0%	19	9.1%
3 歩行困難者が利用	25	11.3%	39	18.7%
4 歩行困難者とそのほかの方も利用	116	52.5%	89	42.6%
5 歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）	45	20.4%	44	21.0%
無回答	3	1.4%	7	3.3%
計	221	100.0%	209	100.0%



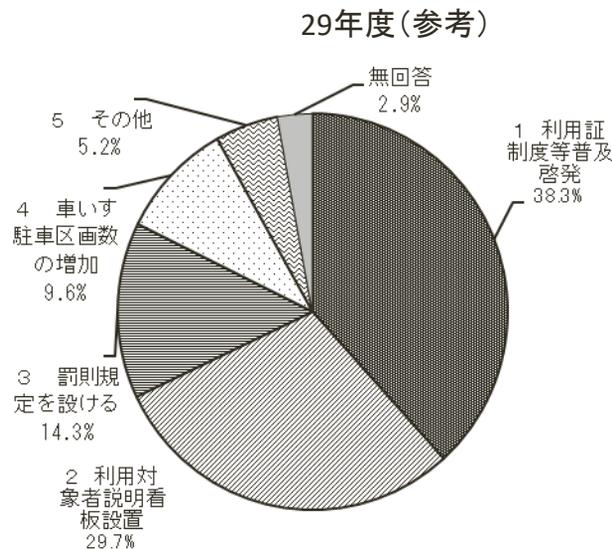
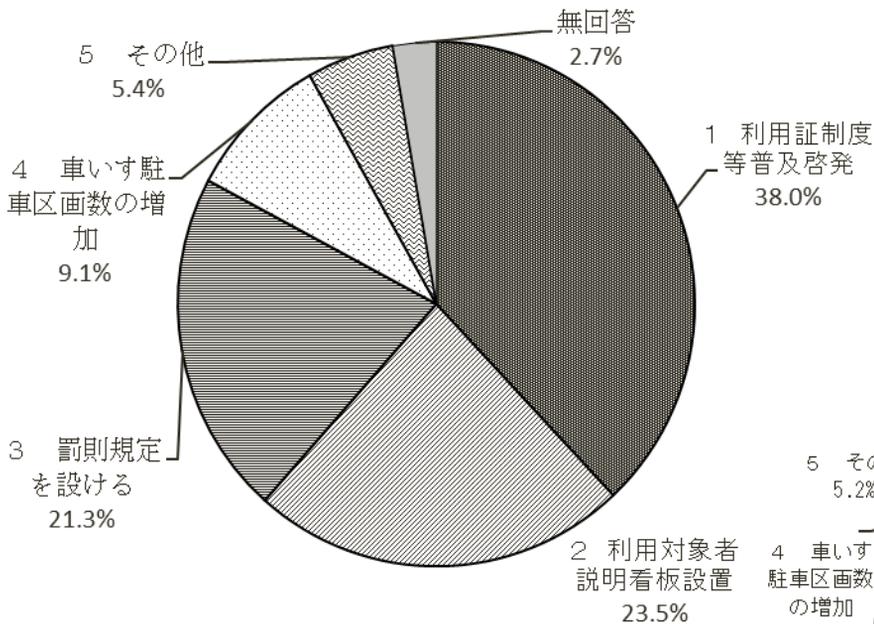
### 【調査結果】

平成29年度と比較して、「歩行困難者とそのほかの方も利用」が増えており、「歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」とあわせて、7割以上の方が、歩行困難者以外の方の利用があると回答している。

### 問13

車いす駐車区画を車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	84	38.0%	80	38.3%
2 利用対象者説明の看板設置	52	23.5%	62	29.7%
3 罰則規定を設ける	47	21.3%	30	14.3%
4 車いす駐車区画数の増加	20	9.1%	20	9.6%
5 その他	12	5.4%	11	5.2%
無回答	6	2.7%	6	2.9%
計	221	100.0%	209	100.0%



#### 【調査結果】

平成29年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車いす駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。また、「罰則規定を設ける」が7ポイント増加している。

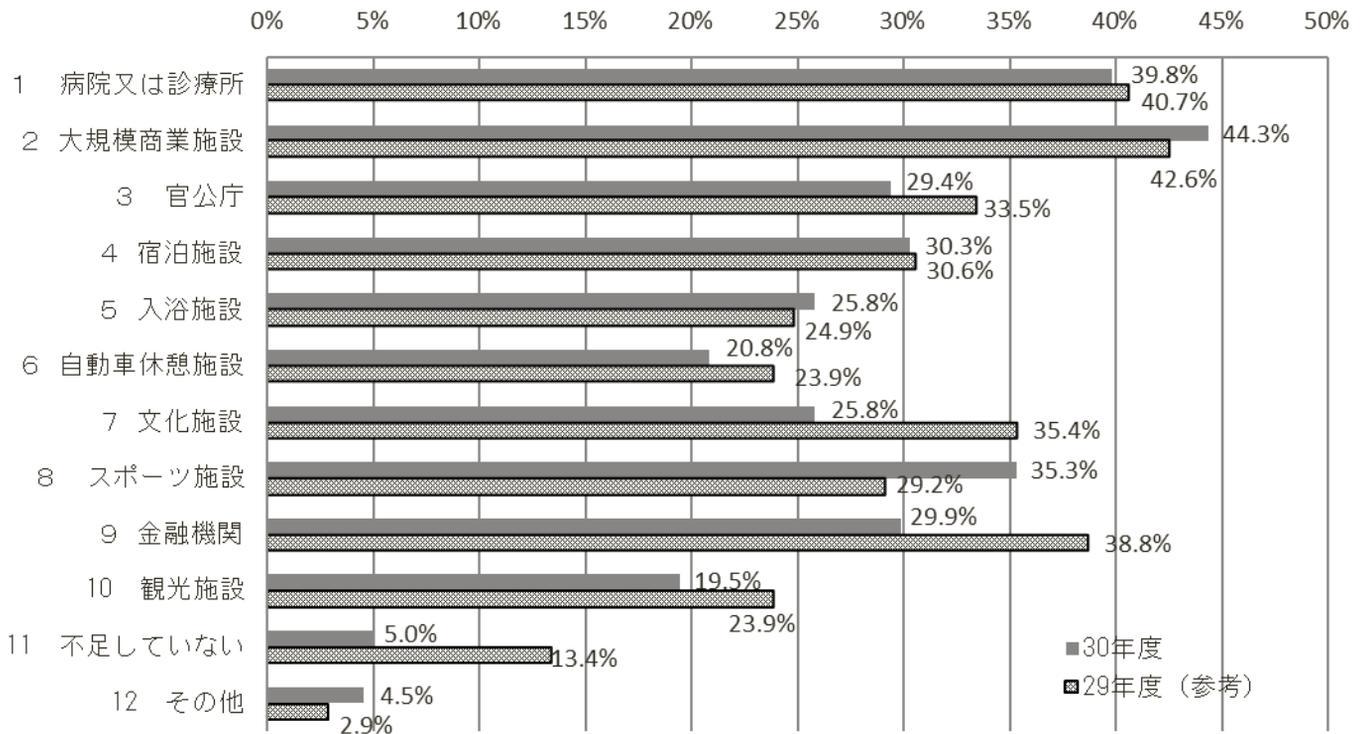
< 5 その他の内容 >

- 公共施設において、健常者と推察される車両が長時間(閉館時間まで)放置されていた。
- 妊婦用のワッペンをダッシュボードに置いたのに、駐車禁止の紙が貼られたことがあり、大変失望したことがあった。妊婦が使用して良いという認識を持っている人は少ないと思う。
- 家族が利用証を持っているが、外見では「障がい」が見えないので、駐車したとき、白い目で見られてとても嫌な思いをしている。
- 混雑するところに車いす駐車区画を設けるべきではない。
- 以前はモラルの問題と思っていたが、明らかに健常者の方が駐車しているのを見るので、今後罰則も必要なのかと思う。
- 小さい頃から家庭や周囲の大人が教えたり、手本になることが必要。
- 運転免許証交付時に重点的に説明する。
- 誰もいなければ一般の人も利用しているため、時々巡回し、常に利用しやすい環境にしておく必要がある。
- 単なる説明の看板ではなく、「車いすではない方が駐車するとレッカー車がくる」などキャッチコピーを公募する。
- 健常者が利用したら罰金を科す。
- 全て講じるべき。

## 問14

次の施設のうち、車いす駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	88	39.8%	85	40.7%
2 大規模商業施設	98	44.3%	89	42.6%
3 官公庁	65	29.4%	70	33.5%
4 宿泊施設	67	30.3%	64	30.6%
5 入浴施設	57	25.8%	52	24.9%
6 自動車休憩施設	46	20.8%	50	23.9%
7 文化施設	57	25.8%	74	35.4%
8 スポーツ施設	78	35.3%	61	29.2%
9 金融機関	66	29.9%	81	38.8%
10 観光施設	43	19.5%	50	23.9%
11 不足していない	11	5.0%	28	13.4%
12 その他	10	4.5%	6	2.9%
(回答者実数計)	221	-	209	-



### 【調査結果】

大規模商業施設、病院、スポーツ施設の順に、車いす駐車区画が不足していると感じる方が多い。

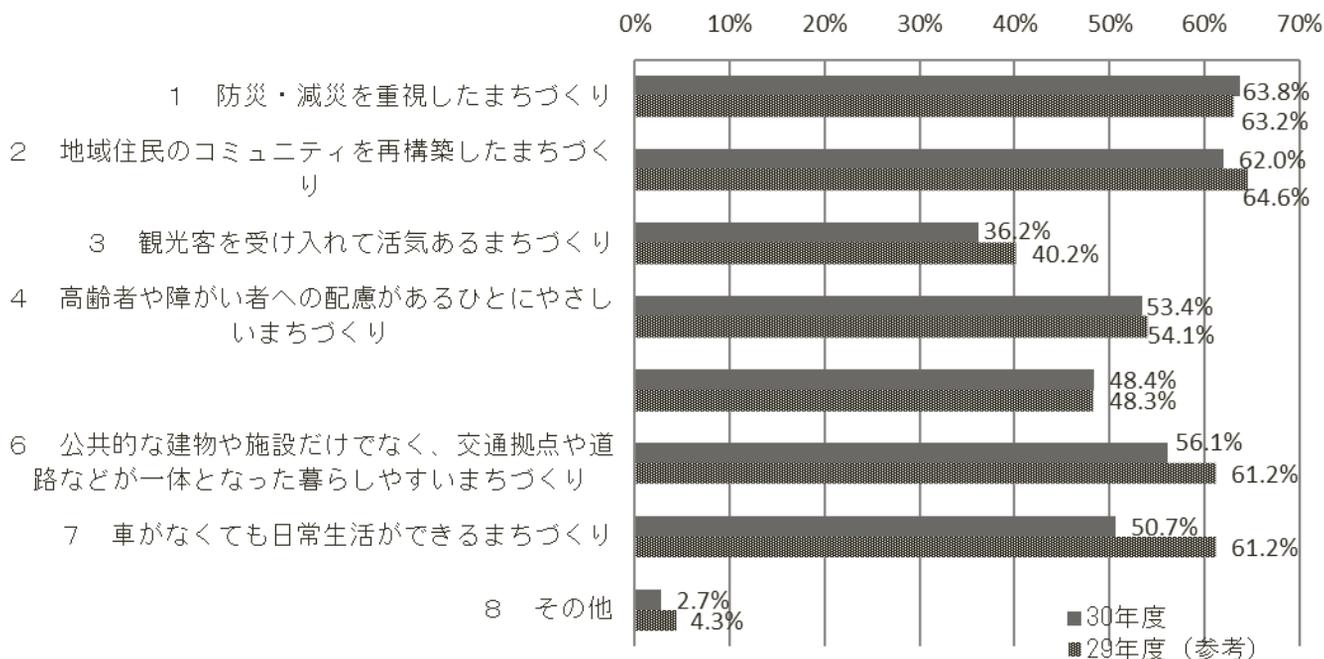
＜12その他の内容＞

- どこの場所でも車いす駐車区画に一般の人が駐車していることが多くある。
- 特に文化施設、スポーツ施設など、長時間利用する施設には、早急な改善が必要である。
- 以前自分が使用してがっかりしたので、いらないと思う。
- 自分自身が利用対象者ではなく、身近にもいないため、十分足りているのか、不足しているのか分からない。
- 全ての施設で施策を講じるべき。
- 駅。
- 自分が行くような場所しか分からない。車いす駐車区画があっても、「この場所で本当に車椅子利用者が一人で車で乗ってきたときに、そのままスムーズに施設内に入れたいだろう！」と思う場所にある駐車場も多く、「つくればいい」という感じで動線を考えていない場合がある。
- コンビニ、携帯ショップ、中古屋、書店、電気屋、ガス会社など。

## 問15-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの。）

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	141	63.8%	132	63.2%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	137	62.0%	135	64.6%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	80	36.2%	84	40.2%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	118	53.4%	113	54.1%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	107	48.4%	101	48.3%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	124	56.1%	128	61.2%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	112	50.7%	128	61.2%
8 その他	6	2.7%	9	4.3%
(回答者実数計)	221	—	209	—



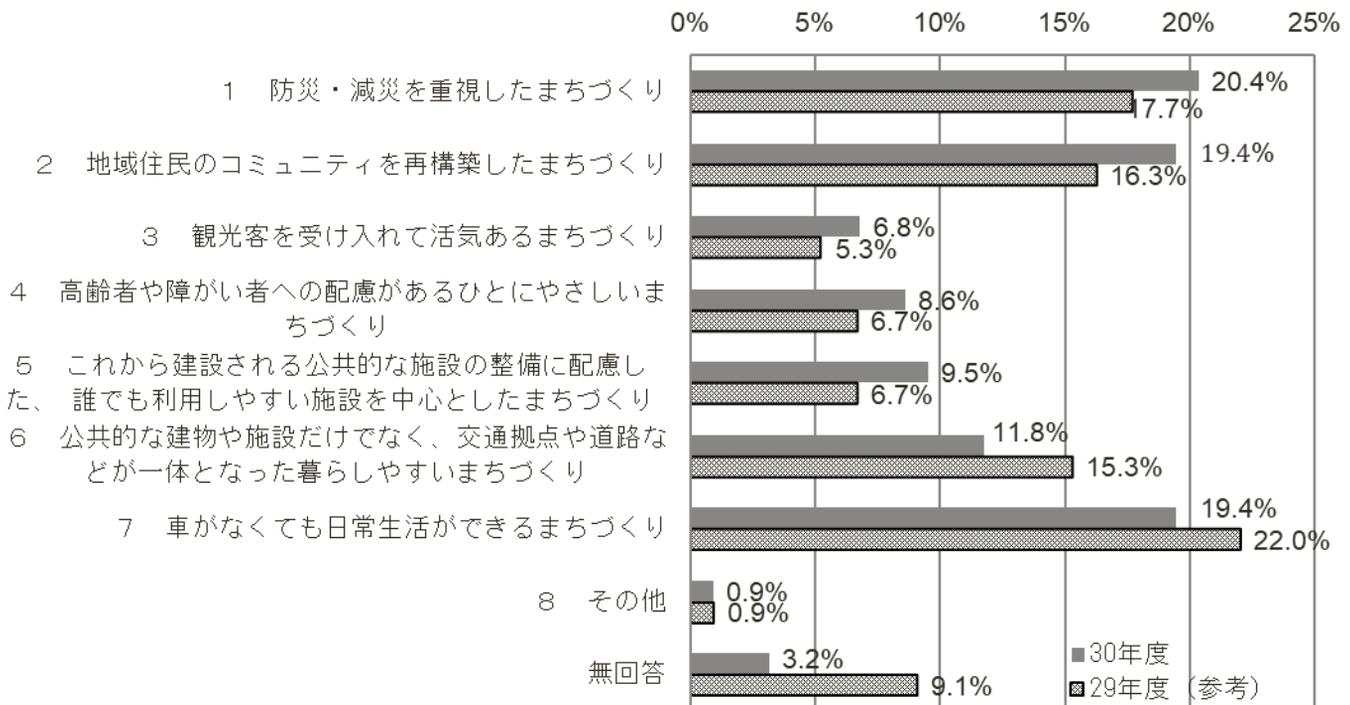
### 【調査結果】

平成29年度と比較し、「防災・減災を重視」、「地域住民のコミュニティの再構築」を重視する傾向は変わらないが、「車がなくても日常生活ができるまちづくり」が10ポイント以上減少している。

## 問15-2

さらに、その中で最も重要だと思うものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	45	20.4%	37	17.7%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	43	19.4%	34	16.3%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	15	6.8%	11	5.3%
4 高齢者や障がいのある方への配慮があるひとにやさしいまちづくり	19	8.6%	14	6.7%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、誰でも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	21	9.5%	14	6.7%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	26	11.8%	32	15.3%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	43	19.4%	46	22.0%
8 その他	2	0.9%	2	0.9%
無回答	7	3.2%	19	9.1%
(回答者実数計)	221	100.0%	209	100.0%



### 【調査結果】

「防災・減災を重視」、「地域住民のコミュニティを再構築」、「車がなくても日常生活ができるまちづくり」の順に高い。

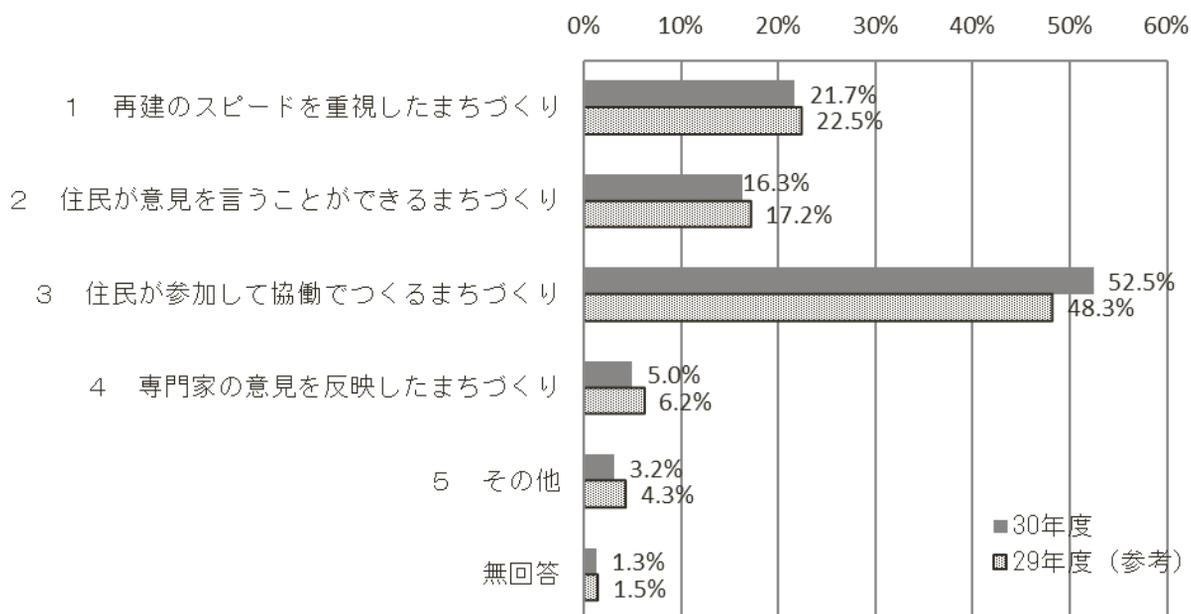
＜8 その他の内容＞

- 東日本大震災津波の教訓が十分に活かされておらず、被災者等に対する聞き取り調査がない。
- 高齢者が運転免許証を返還した後の交通手段に安心できるまちづくり。
- その地域に住む住民自身が元気になるような、住み心地の良いまちづくり。このまちに住んでいて良かったと思うようなまちづくり。
- 震災復興をする上で、防災教育も防災設備も他地区から見学や学習をしにくるくらい先進的なものを取り入れることが大事だと思う。AIを搭載した装置が瞬時に最適なフィルターを選択して水を濾過する、「ハイテク機器」をキャンプ場などに備え、普段はキャンプなどに貸し出し、災害時には避難所で利用している取組をテレビ番組で見た。災害対策と通常の観光などに、最新の機器が利用できると観光客も増えると思う。
- 日常生活から公共交通機関が利用でき、世代間交流のできるまちづくり。
- 起業しやすい環境の整備。県内経済の活性に注力したまちづくり。

## 問16

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	30年度		29年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	48	21.7%	47	22.5%
2 住民が意見を言うことができるまちづくり	36	16.3%	36	17.2%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	116	52.5%	101	48.3%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	11	5.0%	13	6.2%
5 その他	7	3.2%	9	4.3%
無回答	3	1.3%	3	1.5%
(回答者実数計)	221	100.0%	209	100.0%



### 【調査結果】

平成29年度と同様に、「住民参加・協働」と「再建のスピード重視」、「住民が意見を言う」の順に多い。

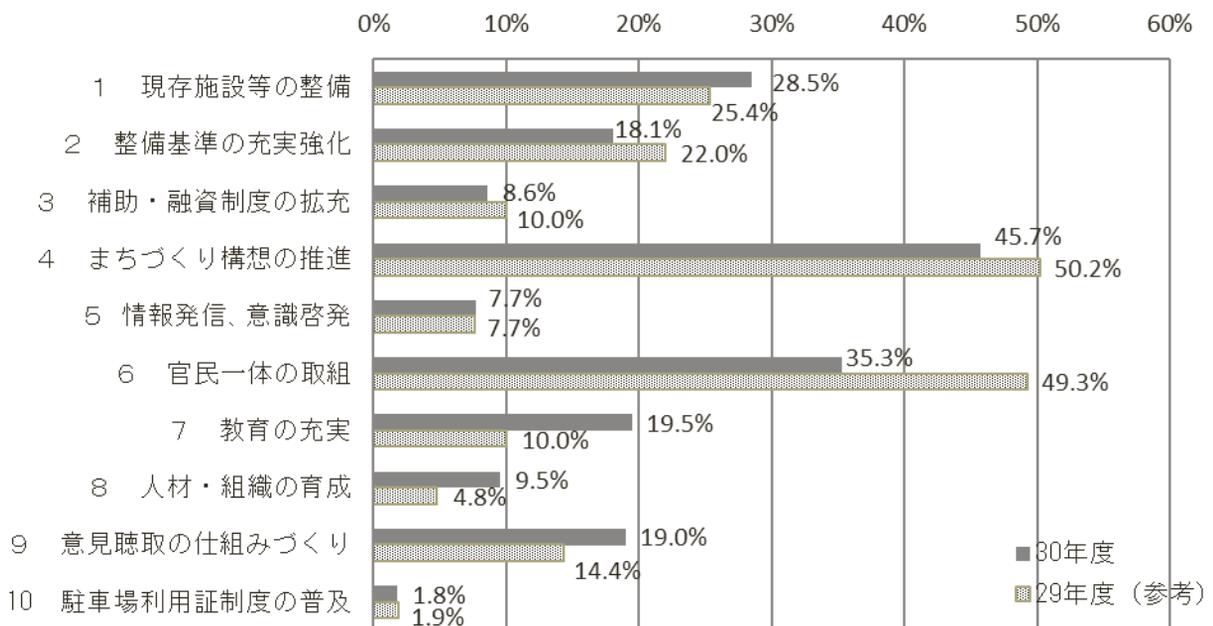
「 < 5 その他の内容 >

- 「 ●被災地から遠いので分からない。
- 「 ●加速する人口減少への対応。
- 「 ●困難な生活をしている人を第一に救済するまちづくり。
- 「 ●オリンピックの方に人材が大量に流入していると聞いているので、人材の確保を考え  
「 てほしい。
- 「 ●「住民」や「専門家といわれる人」だけでなく、グローバルな視野を持った人材にも  
「 参加し意見してもらおう。
- 「 ●陸前高田市の「バリアフリーという言葉が不要」のまちづくりを被災地全地域で行う  
「 よう県で指導してほしい。

## 問17

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。  
(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	30年度		29年度 (参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	63	28.5%	53	25.4%
2 整備基準の充実強化	40	18.1%	46	22.0%
3 補助・融資制度の拡充	19	8.6%	21	10.0%
4 まちづくり構想の推進	101	45.7%	105	50.2%
5 情報発信、意識啓発	17	7.7%	16	7.7%
6 官民一体の取組	78	35.3%	103	49.3%
7 教育の充実	43	19.5%	21	10.0%
8 人材・組織の育成	21	9.5%	10	4.8%
9 意見聴取の仕組みづくり	42	19.0%	30	14.4%
10 駐車場利用証制度の普及 (回答者実数計)	4 221	1.8% —	4 209	1.9% —



### 【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」、「官民一体となった取組」が多いが、平成29年度と比較すると「官民一体の取組」は14ポイント減少している。また、「教育の充実」は9.5ポイント上昇している。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 地域や家庭内での「ひとにやさしい地域や家庭」という考えを浸透させる教育が大切と考える。
- 行政でもっと住民に分かりやすい教育、指導ができる人材を育てること。それを実行につなげることが大事だと思う。
- 東日本大震災時において、知人親族等、複数名犠牲になり、自分も10日ほど沿岸に向き捜索をした経験がある。昭和35年のチリ地震津波には、自衛官として長期間災害派遣勤務をしている。先日、復興推進課のふれあい探訪に参加し、三陸沿岸の復興状態などを視察した。
- 学校教育の中で、人を思いやる心やマナー、障がい者への思いやりの心を育てる必要がある。
- 人口の過疎化が進んでいることから、病院、大型スーパー、商業施設等の集中化が必要だと思う。行政、民間が連携して開発に取り組み、その中でバリアフリー等「ひとにやさしいまちづくり」ができれば良いのではないか。
- 病院内で名前を呼ばれた高齢者の方が、椅子から立ち上がるのが大変そうだったので、「お手伝いしましょうか。」と声を掛けたら、「お心遣いありがとうございます。でも大丈夫です。」と返事があった。自分自身でできることは頼らないと決めているようだった。自分も年齢に甘えずに生きたいと思った。設備もさることながら、個人の心掛けが大切だと思う。
- 高齢者のためバス路線のない地域の交通手段が必要。
- 自分がその立場になってからでしか気付かない。子どもの頃から何らかの形で教育することが大切だと思う。思いやりのある人の多い県になることを願う。
- 行政だけでつくりあげるのではなく、民間、各地域の人達と一体となってやることで、子どもたちの未来にもつなげられると思う。
- 大切なことなのに人々の理解や関心を持つことにつなげられず、歯がゆく思う。
- コンビニ前の出入口などに車いす区画があるが、危険でありかえって不便ではないか。出入口から離れていてもゆっくり安全に乗り降りできるように配慮が必要だと思う。
- 母（90歳）が移動に車いすを使い生活している。新しい施設はバリアフリーが行き届いているが、古い施設は時々不便を感じるので、少しずつでも改善されると良い。
- バリアフリーにするにはお金がかかる。設置した設備がどれくらい使われているか、費用対効果の検討を是非とも行ってほしい。
- 聞いたことはあったが具体的な内容までは理解できていなかった。新聞等にヘルプマークの説明などをいろいろ取り上げてもらいPRしてほしい。
- 先日、大型スーパーのATMを利用した際、車いすの高齢者の方が、お金を下ろした後、サイフに上手くしまえず、壁の隅の方で人目を気にしていた。ゆっくりとお金をしまふスペースがあれば、お互いに安心できるのではないかと感じた。介助がなくても自分でやるという意識や、今できていることが、今後も継続してできることを大切にしていければと感じている。
- 車がなくてもスーパー、病院、学校、公共施設等に移動できるまちづくりを目指してほしい。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 高齢者、一人暮らし、障がいをもった人達を見守り、必要に応じて援助できるよう、行政と近隣住民で協力し、安心して暮らしていけるようなまちになってほしい。
- 安心して暮らせるまちになれば、ハード面は今のままで良いと思う。住む人が皆優しい心を持てたら良いと思う。
- 「障がい者だから」、「高齢者だから」ではなく、全ての人々がお互いを思いやり、心遣いができるまちであるべきであり、まずは大人から手本を見せる必要がある。
- 年々一人暮らしの高齢者が多くなっており、災害から完全に復旧していない道路もあるせいか、買い物で不便を強いられ、困っている高齢者は多い。バス（交通機関）の運行本数を増やし、乗車券などを交付してはどうか。
- 「ひとにやさしいまちづくり」のためには、都市部だけではなく、地域に密着し住民の声を聞いてくれる機会（アンケート等）をつくるべきだと思う。
- 東日本大震災津波で被災した後、じっくり考えて、一箇所に機能を集中したまちづくりをしてほしかった。
- 朝や午前中に、かかりつけ医療機関の近くで停車するバスがあれば良いと思う。
- 「ひとにやさしいまちづくり」のためには、行政面の施策だけでは限界がある。高齢者や障がい者を守り、県民が等しく安全で安心して生活できるハード、ソフト両面で充実した環境をつくるためには県民一人ひとりの意識改革が重要だと考える。
- 高齢者の一人として、自分でも何か役に立てる場所や、生きがいがほしい。
- 「ひとにやさしいまちづくり」自体が浸透していない。
- 何度も意見を聞いた上で吟味し、丁寧に掘り下げて考えて、具現化していく必要があると思う。
- 目に見える障がい者、子ども、高齢者、妊婦に対して理解を示す人は多いと感じるが、外国人、うつなどの精神障がい、発達障がいへの社会的理解がなく悲しく感じる。そのようなものも含めたユニバーサルデザインに期待する。
- 「ひと」に対する理解と寄り添う心に尽きる。そのためには、地味だが地道な教育と啓蒙活動で意識を変えていくしかない。
- 「誰もが暮らしやすいまち」は難しいことだと思う。誰もが少しずつ我慢すれば理想に近づけるような気がする。
- 誰もが安心して生活できるまちづくり。
- 近所の踏切の手前のでこぼこしている道路で、つまづきそうになった視覚障がい者と思われる方の体を咄嗟に支えてあげた中学生がいて、「岩手っこっていいなあ」と思った。盛岡市上田は白い杖をついた視覚障がい者と思われる方々を多く見かける地域なので、道路の点検や整備が必要だと思う。
- 問19（4）「回答者の属性内訳」の選択肢に不満である。障がい者と認定されない発達障害などの障がいもあれば、小学生以上の子どもを育児する上でも苦労することもある。
- 大切なことは、「人の気持ちを想像する」ことだと思う。いろいろな場面での「想像すること」を皆で培っていかれたらと思う。
- 徒歩圏内で、かつ、半月以上の長期避難が可能な避難場所を均一に整備してほしい。
- 言葉だけが先行し、制度や仕組みが追いついていないのではないか。
- 公共交通機関や案内表記を充実してほしい。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●公共的施設の駐車場が多いことはありがたいが、公共交通機関を活用した施策を推進してほしい。例えば、路線バスを整備の上、バスの運行本数を増やしたり、無料シャトルバスを運行すれば利用しやすいと思う。

●次世代の人材育成、まちづくり、空き家対策などをしてほしい。

●それぞれの市町村の規模、事情にあったまちづくりが必要だと思う。人口が減っていき中で、できるだけ費用を使わずに、創意工夫とアイデアを持ち寄りながら、民間と協力した行政運営を期待する。分かりやすいのが一番だと思う。

●日常生活で不便に感じたことを身近に伝えることができる環境があれば、意見しやすいと思う。

●地域にある既存の体制を生かし、尊重、支援できるまちづくりが欠かせない。

●岩手県は県土が広く、中心部、山間部、沿岸地区とでは地域事情が違うため、それぞれの地域にあった施策をお願いしたい。

●障がい者等へのバリアフリーももちろん大事であるが、大規模商業施設、駅などの動線にある案内表示もっと分かりやすくしてもらいたい。

●ソフト面をもっと充実、推進させていくことに期待する。

●ひとにやさしいまちづくり条例を知らず、妊娠するまで、ユニバーサルデザインやバリアフリーを意識したことがなかったが、妊娠中に車いす駐車区画を利用し、とてもありがたいと思った。利用した場所は「妊娠中の方も使えます」と表示してあったが、何も書いていなければ、車いすや障がいのある方しか駐車してはいけないと思っていたはずだ。車いす駐車区画などについて、もっと理解が広がるよう広報、啓発活動が必要だと思う。

●冊子をつくり配布するべきだと思う。

●先月、須川温泉に行ったが、ひとにやさしいまちづくりという観点だけではなく、観光という観点からも、誰もが利用したくなる施設やまちづくりを考えてほしいと感じた。

●以前、身体障がいのある方に介助を申し出たところ、「自分一人だけでできる」旨言われたため、それ以来、身体障がいのある方に気づいても見て見ぬふりをしてきたが、これからは勇気を出して、声をかけていきたい。また、街中を意識して見るようにして、ハード・ソフト両面で気づいたことがあれば提言していきたい。

●公共施設などのものづくりも大切だが、まずは人づくり、気持ち、心づくりを優先すべきだと思う。人が育っていないと、まちづくりも何もできない。私自身が県外からの移住者のため、生活の中でそう感じることが多い。

●行政任せにするのではなく、行政と民間が連携し、多様な人々の意見を反映させるような仕組みをつくるのがポイントだと思う。

●車がなくても生活できるまちづくりが必要だと思う。

●住民の意見、希望を広く集め、分析し、よく吟味するべきである。

●ハード面でもソフト面でも、バリアフリーが求められる。居住者相互に偏見を持たず、コミュニケーションを図ることが大事であると思う。

●自分自身で体感しないと分からないことが多いため、困っている人の意見はとても大切だと思う。私自身、以前は気にならなかったことが、母となり、育児をするようになって初めて気づき、不便さを感じることもある。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- これから自分も高齢になり、車を運転しなくなることを考えると、交通手段が充実しているととても助かると思う。
- 行政ではいろいろとハード面の改善をしていると思うが、利用する一般県民への啓発・啓蒙がまだ十分に浸透していない気がする。例えば、車いす駐車区画に障がい者等のものではない車が平然と駐車されており、所有者のモラル、公德心を疑うとともに憤りを覚えることが多々ある。罰則という対策以外の方法で県民の心を育てることが必要だと思う。
- アンケートの調査対象者を明確にしてほしい。また、具体的な指摘については、すぐに対応すべきだと思う。
- 高齢者や介護する人にやさしいまちづくりをしてほしい。
- 盛岡市や宮古市の一部の病院では、付近道路の道幅が狭く、かつ、カーブも多い。また、平成28年台風第10号で被災した道路の復旧工事も進まず、対向車とすれ違う際に危ないと思うことが多い。病院利用者が通行しやすいように、関係道路を2車線にするなど、必要な整備をしてほしい。
- ハード面だけでなく、自分自身が優しい気持ちになりたい。
- 全て当てはまる設問があり、選定しがたいものがあった。障がい者団体の育成、強化施策や、「障がい者」との対話を希望する。
- 高齢者や障がい者などの生活弱者において、どのようなことに困っているのか、大変なのかなど、分からないことが多いので、理解や協力を深めるためにも、もっと広報活動が必要なのではないかと思う。当事者の努力ではなく周りの人が当事者を理解する努力が必要だと思う。
- 子育てしやすい環境は以前より増えてきていると思う。施設や道路だけでなく、市町村や県の各制度のメリットを抱き合わせで広報することで、理解できる人が増えると感じた。
- LGBTの方々にとって、岩手県は過ごしにくいとテレビで報道されていたようだったので、障がい者も健常者も分け隔てなく生活できる環境づくりが必要だと思う。
- 一人ひとりが思いやりのあるやさしいまちづくりをしてほしい。
- 広報等で紹介も必要だが、必要な場所にバリアフリーやユニバーサルデザインが整備されるように尽力していただきたい。
- 環境に配慮した上で、体の不自由な方、高齢の方、小さな子ども連れの方まで気兼ねなく出かけることができるよう、交通面や、駐車区画等に不便がないまちづくりをしてほしい。
- 遊具のある公園をつくってほしいとお願いしているが、一向に実現しない。それでは子どもたちが育つ場所がない。「ひとにやさしいまち」とは誰でも気軽に集まる場所があることだと思う。公衆トイレを改修するなら、遊具のある公園を整備してほしい。
- 人口減少が著しく、高齢者が増えていく中で、コンパクトシティが必要になってくると思っている。コンパクトシティへの啓発活動が必要だと思う。
- 民間団体にも助成金等を出し、後押しした方が消費拡大にもつながり相乗効果が得られると思う。
- 行政のみでは無理があるため、NPO法人や一般社団法人などにも積極的に委託をした方が良いと思う。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 学校で「命」に関する教育をする必要がある。
- ハード・ソフト両面において、行政の意見だけを取り入れていくのではなく、住民が積極的に参加するまちづくりを進めていく必要があると思う。
- 今回のアンケートで「ひとにやさしいまちづくり」というワードを聞くまで、私自身も「ひとにやさしいまちづくり」についてよく考えたことはなかった。障がい者や高齢者、いろいろな方が暮らすまちなので、住民が主体となった、住みよいまちづくりにしていく必要がある。これからの未来に、子どもたちが希望を持ち、明るく前向きに生きていけるようなまちになってほしい。
- 日本では障がい者の65%以上が高齢者なので、この二つを同時に考えなければならないが、それを実現するための財源的要素が説明されていない。補助金だけで行う行政構造を変えない限り、事業が行われるたびに地方自治体は財政難に襲われ、悪循環となる。
- ひとにやさしいまちづくりを進めるには、行政職員の意識が重要ではないかと思う。先例や予算などにとらわれず、子どもから大人まで、高齢者や妊婦などにも配慮した計画策定・事業化を望む。
- 人口の少ない地域は、バリアフリーの施設が比較的少なく、障がい者への理解も少ないように感じる。どの地域に暮らしても、安心して暮らせるようになってほしい。
- 「ひとにやさしい」要素のみに力点を置くのではなく、人口減少期を迎え、多くの人を永住したいという気持ちにさせる、「魅力あるまちづくり」を検討してほしい。
- 「ひとにやさしいまちづくり」という考え方は大変素晴らしいと思う。全てやろうと思うと内容が薄くなると思うので、まずは社会的立場が弱い方を中心に施策を実行してもらいたい。
- ペースメーカーを入れている家族がいる。外見からはわからないが、障がい者に認定されていて、スマホの磁気や万引き防止の磁気などは悪影響を及ぼす。そのような、外見からはわからない障がいを持つ人が暮らしやすい社会にしていく必要があると思う。
- 車が無い人でも色々なところに行くことができるまちづくりをしてほしい。
- 高齢者や障がい者に対する配慮も大切だが乳幼児を中心とした考え方も大切だと思う。
  - ・ベビーカーでの移動が困難な場所
  - ・小学生の通学路なのに歩道がない場所等があることも考えていただきたい。
- 高齢化社会になっていく中で、ひとにやさしいまちづくりはとても重要であると思う。子どもを産み、親が高齢になっていく中で、改めて考えてみると不便だと思えることが多々あった。可能な限り住民の意見も聞き入れ、住みよいまちになることを願う。
- 来年子どもが生まれるので、以前より子連れ目線で物事を見ることができるようになった。
- 図書館や公共施設など、トイレの個室が狭い場所があるので、ベビーカーで入れるスペースを増やしてほしい。
- 人と人とのつながりを持つことができる人がいたら良いと思う。

問18「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●盛岡市みたけ地区の車道・歩道の補修・改善を考えてほしい。特に、運動公園付近の車道には段差があり、路面凍結時は歩行者、車両ともにスリップし、とても危険である上、石畳風に舗装されている歩道はベビーカーを使用するときに不便だと思う。また、国分通りの歩道は狭く、傾斜もあり、歩きにくい上、危険である。歩道・車道の雪対策をしてほしい。

●ラグビーワールドカップに関連し、車いすによる周辺道路の調査をしている様子がテレビで放送されているのを見た。あのような取組がテレビで放送されたことはとても嬉しく思う。普段、自分自身の仕事や家のことに忙殺されていると他の方がどのようなことをしているのかを知る機会が減ってしまう。そのようなときに、日常的に目にしている媒体で広報・啓発活動をしてもらえることはありがたく感じる。

●立場が違うと、どう接して良いかや、どのように理解すれば良いかなど、わからないことが多い。しかし、高齢者、障がいのある方、子育て中で何らかの助けが必要な方など、いろいろな立場の人のことを知る機会や場所があると、相手の気持ちがわかり、優しい気持ちになったり、理解出来るようになると思う。今回のアンケートは、自分にも何か出来ることはないかということを考える良いきっかけになった。

●一人ひとりの意見を尊重し、住民が一体となって連携したまちづくりが必要。人口の増加によって、その地域が活性化されると思うが、沿岸部は内陸部と違って交通が不便で、人口減少もあって賑わいが足りない。自然が多く、景観も良いのだが、水産業や林業などの資源を活用した生活には限りがあるため、若い人は都市部の方へ流出していくのではと思う。子どもの教育を心配しており、一定の教育と福祉が充実した岩手県となり、一部の人だけではなく、全ての人が生活の基礎を築けるまちとなることを望む。